

# 報 告 書

# 平成29年度 広域連携サミット

広域連携による観光施策の推進

～多摩の魅力を生かした観光振興に向けて～

日 時：平成29年11月21日（火） 15:30～18:00

会 場：ホテル日航立川 東京 3階



## 【 概 要 】

会 議 名 平成 29 年度広域連携サミット

日 時 平成 29 年 11 月 21 日 (火) 15:30~18:00

会 場 ホテル日航立川 東京 3階 アトランティック

主 催 立川市、昭島市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、  
福生市、東大和市、武蔵村山市

出席者名	立川市長	清水 庄平
	昭島市長	臼井 伸介
	小平市長	小林 正則
	日野市長	大坪 冬彦
	国分寺市長	井澤 邦夫
	国立市長	永見 理夫
	福生市長	加藤 育男
	東大和市長	尾崎 保夫
	武蔵村山市長	藤野 勝
	法政大学現代福祉学部教授	保井 美樹

参加者状況	一般来場者	62名
	市役所関係者	71名
	招待者・関係団体	13名
	報道機関	13名



## 1 開 会

(司会)

大変お待たせいたしました。ただいまから、平成29年度広域連携サミットを始めさせていただきます。

私は、本日、司会を務めます立川市総合政策部長の小林と申します。よろしくお願いいたします。それでは早速ではございますが、開会の挨拶に先立ちまして、ご出席者の皆様をご紹介いたします。

立川市の清水庄平市長、昭島市の臼井伸介市長、小平市の小林正則市長、日野市の大坪冬彦市長、国分寺市の井澤邦夫市長、国立市の永見理夫市長、福生市の加藤育男市長、東大和市の尾崎保夫市長、武蔵村山市の藤野勝市長、ファシリテーターの法政大学現代福祉学部、保井美樹教授、以上10名の皆様です。

## 2 開会挨拶（立川市長 清水庄平）

(司会)

続きまして、開会にあたり、立川市の清水市長より、ご挨拶申し上げます。

(立川市長)

こんにちは。ご紹介いただきました立川市長の清水でございます。本日は、このように大勢の皆さんに関心を持っていただき、そして会場まで足を運んでいただきましたことに心からお礼を申し上げる次第でございます。ありがとうございます。

この広域連携サミットにつきましては、経済縮小、財政縮小、高齢化、これらの将来に対しての非常に難しい課題に向けて、何とか打破できる方法はないものかという発想のもとに、それぞれ同じ悩みを持つ自治体同士が広域的に連携をすることによって、さまざまな課題が解決できるのではないかという思いで、立川市に隣接をする首長さん方にお声かけをして、昨年度第1回が開催されました。

昨年度は、その中から、例えば図書館の相互利用とか、あるいは人事交流というお話が出ておりました。もう既に事務レベルでこのような動きが幾つか芽生えております。また、私どもと日野市さんとは、コンピューターシステムの基幹系システムの入れ替えに関しまして、相互に連携をしながら、三鷹市さんにもご加入いただいた中で、3市で基幹系システムの方向性、あるいはリニューアルをしていこうではないかという話もほぼまとまりつつあるところでございます。

このような中で、実質的に第2回ということになるわけですが、今後さまざまな課題に向けてさらに深く掘り下げていく中で、連携をより深めていきたいということでございます。「広域連携による観光施策の推進～多摩の魅力を生かした観光振興に向けて～」と題しまして、本日は地域創生に向けた意見交換を公開の場で9市の首長が直接お話を



させていただくということになりました。

また、この会の進行に際しましては、法政大学の保井先生に、お忙しい中、ファシリテーターを務めていただくことになりました。約2時間の会合となりますが、ぜひ活発なご意見が交わされ、実りある会合となりますことを祈念し、開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞ皆さん、よろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。



### 3 「広域連携サミット2017」報告

(司会)

続きまして、昨年度開催されました「広域連携サミット2017」について報告いたします。

お手元のパンフレット、見開き右ページにも記載されておりますが、本年1月31日に、立川市緑町にあります統計数理研究所を会場といたしまして、9市の主催により開催いたしました。同研究所の樋口知之所長様の進行のもと、「地域における広域連携に向けた取り組み～魅力あふれる多摩地域の創生の実現に向けて～」をテーマに、各市で重点的に取り組んでいる施策や課題等を踏まえ、広域的に連携することで解決できる施策や取り組みについて意見交換を行いました。

当日、市長の皆様より、各市が連携して取り組むご提案を幾つかいただきましたが、その中でも、利用者における利便性の向上につながる図書館の相互利用や、各市職員のレベルアップを図るために、他団体への出向などを通して、9市間で相互交流を図る職員の人事交流について、幾つかの市長様からご提案をいただきました。これらにつきましては、事務レベルで現在、実現に向けて検討を進めております。

また、今回、「観光」をテーマに設定した背景といたしましては、前回のサミットで各市長様からお話がありましたが、これからの将来、人口減少社会を迎え、自治体として生き抜くためには、広域的に連携して人を呼び込む対策が必要であるとの認識を踏まえ、その呼び込むためのツールとしての観光にスポットを当てて、意見を交わしてみてもどうかといったことから、「観光」をテーマとすることになりました。

以上が、昨年度実施いたしましたサミット2017と、今回のテーマ設定に係る経過でございます。

### 4 挨拶（法政大学 現代福祉学部 教授 保井美樹）

(司会)

続きまして、本サミットでファシリテーターをお願いしてございます法政大学現代福祉学部、保井教授よりご挨拶を頂戴いたしますが、ご挨拶の前に、保井教授の経歴につ



いてご紹介させていただきます。

教授は、早稲田大学政治経済学部政治学科をご卒業後、アメリカ・ニューヨーク大学大学院公共政策大学院都市計画専攻修士課程を修了され、その後、アメリカ・ニューヨーク行政研究所客員研究員、世界銀行コンサルタント、東京大学先端科学技術研究センター特任助手を歴任されました。2012年より、法政大学現代福祉学部の教授を務めておられます。

専門分野は、都市計画、エリアマネジメント、公民連携等で、全国エリアマネジメントネットワーク副会長や、国土交通省国土審議会土地政策分科会・企画部会委員のほか、地域運営やまちづくりに関する全国各地の自治体や組織の委員等を務められております。

それでは、保井教授、ご挨拶よろしくお願いたします。

#### (ファシリテーター 保井教授)

改めまして、皆様、本日はどうぞよろしくお願いたします。多摩の「おへそ」のような真ん中にある大変重要なこの地域での広域連携、その中でも、今後の交流人口をいかに増やしていくかという意味での「観光」をテーマとした議論にファシリテーターとして参加させていただきますこと、大変光栄に思っております。よろしくお願いたします。

最初に私から、10分ほど今日の趣旨についてレジュメを1枚だけ挟ませていただいております。短い時間ですので、おそらく全部お話しできないと思いますが、そちらを見ていただきながら、今日の趣旨をお話しさせていただければと思っています。



「観光」ということで、「観光振興」というテーマが立っておりますが、9つのそれぞれの自治を担う市長さんたちがお集まりですので、その9つの市が求める観光のイメージに共通のものが生まれてくるかと、見えてくるかと、そこが大きなポイントではないかと思っております。

そこに、1番にも書かせていただきましたように、観光というのは非常に多様で、ますます多様になってきています。大きなイメージとしては、いわゆる観光客が、宿泊もしながら、このエリアのさまざまな施設で楽しんでもくれる人の増加を考えている方が多いと思いますが、近年では、それ以外にも「MICE」と言われるように、研究も含めてですが、ビジネスでやってきたが、その人たちが多少の観光も期待して周遊してもらおうというようなことを推進していく。あるいは、移住者も含むような中長期の訪問者の誘因。さらに言えば、住みたいまちをいかにつくっていくか。そういうことまで含めて「観光」というふうに呼ばれることが増えています。

こういうことを整理することなく、総花的な施策を進めていかれるということはずい避けたいと思います。とがった、いわばピンホールを狙うことで、そのマーケットが遠くまで届くような、そんな方向性をつくっていくことができたらいいのではないかと思います。

そのところが2番で書きましたが、観光というよりも、あえて最近では観光というと、「ツーリズム」というふうに呼ぶことが増えています。おそらく、観光が、いわゆる物

見遊山でどこかの施設に行くというようなことを目的とした時代をイメージさせるので、それを避けてあえて使っているという側面も大きいわけですが、ツーリズムと言ったときにそれを支えているのは、狭い意味での観光産業だけではなく、ビジター産業とかホスピタリティ産業というふうに呼ばれますが、訪れる全ての人たちを取り巻く、市民も含めた全ての事業、ビジネスということになるわけです。

新たな観光客を呼び寄せるだけでなく、多摩に既にあるビジネスのビジター、それから私たち大学のさまざまな研究機関も、実はさまざまな多くのビジターがおり可能性があります。そういうところを狙うことで、観光のピークシーズンをずらしたり、あるいは新しい需要をつくり出すといった側面などもあると考えられます。

もう一つは、やはり住みたいまちをつくるということだと思っています。先週、とあるご縁で、テレビ番組で、非常に日本人に人気の観光地になっているポートランドのことを取り上げさせていただき、ナビゲーターをさせていただいたのですが、決して観光振興をずっと行ってきたまちではないです。とにかく暮らしの質が高いというので、日本からたくさんの観光客が行き、企業が誘致されています。そこで何が有名なのかというと、とにかく市民が元気で、「Weird」という、ちょっと変わっているという人が多いようですが、元気で、地域のことが大好きで、いろんな形でコミットしています。

よく象徴的に言われるのが、いわゆる小規模なビールの醸造所、ブルワリーが110カ所あるそうです。それから、公園が広域にたくさん配置され、暮らし、仕事をしながらそういうところでたくさんの交流が行われています。さらに言うと、土地利用が広域で連携されていて、成長境界を定めて農業が非常に盛んです。そこで採れた周辺の農産物がまちなかで消費されることで、非常に食文化もレベルが上がっています。

さらに言うと、議会がコミッション制という、いわば行政の指揮も行っているような、少人数で行われていますので、議会と議員と市民との間の話し合いが盛んで、まち中でいろんなまちづくりの話し合いや実験が行われています。

そういういわば市民のアクティベーションを行うことを「見える化」していくことだけでも観光ということにはつながっていくわけで、この辺のポートランドのことを見ていると、東京の郊外部として暮らしを支えてきたこの多摩地域というのは、非常に大きな可能性があるのではないかと考えています。

そういうことを国土交通省でも、あえて地域主体のまちづくり活動と観光的な活動を一緒にやりましょうということで、観光まちづくりというような考え方が行われていますし、もっと言えば、それは、このまちに行きたい、住みたいと思わせるようなエリアのブランディングというようなことになるのではないかと思います。

ぜひ今日は、そういうエリアのブランドを支える、「多摩9市」と書きましたが、この9市の呼び方も何かあるといいのかなと個人的に思います。いろいろ準備をしていますが、このエリアのユニークネスをどこに置くのか、そんな視点、どんな体験ができ、食があり、文化があり、そしてみんなでどういう形のおもてなしが多摩に行くと実現するのか、そういったユニークネスをどこに置くかというような視点が必要だと思います。

それから、近年ではDMO（デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション）とかDMC（デスティネーション・マネージメント・カンパニー）のような仕組みがござい

ますが、そのような、話し合って事業を進めていけるような仕組みづくりをどう生むかといった体制づくり、財源、そして何から始めていくか。そんなことを具体的に最終的に議論することができたらと思っておりますので、皆様、ご協力をよろしく願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

## 5 意見交換

(司会)

それでは、これから意見交換に入らせていただきたいと思います。

保井先生にマイクをお渡しすることといたします。先生、よろしくお願いいたします。

(ファシリテーター 保井教授)

本日の意見交換の進め方について簡単にご説明させていただきます。

大きく分けて二度、市長の皆様マイクを回させていただければと思います。1回目は、各市長様より、各市の現状や課題、そして広域連携の可能性についてご発言をお願いできればと思います。順番は、恐縮ですが、市制施行順ということで、立川市の清水市長から順番に回させていただければと思います。

その後、休憩を挟みまして、二度目のご発言が、広域連携による取り組み、あるいは今後の展望など、具体的な今後の進め方について幅広く意見を頂戴したいと思います。

それでは、早速でございますが、1回目のご発言として、各市の現状・課題についてご発言いただければと思います。

まず、立川市の清水市長から、よろしくお願いいたします。

(立川市長)

それでは最初に口火を切らせていただきます。

立川市は、昨年より立川市の第4次長期総合計画の実行活動に入りました。今までは長期計画は3回ありましたが、それぞれ15年計画でした。今回の第4次につきましては10年計画にしました。しかも、真ん中の5年目で見直しを図る計画でございます。このネーミングが「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」、こうつけました。一見、「にぎわいとやすらぎ」というのは矛盾する価値観ですが、1日約40数万人を超える来街者が来てさまざまな活動を展開しています。

立川は、長い間「基地のまち」と言われておりました。「基地のまち」というと、どう見てもドライなまちを連想しますが、それでは困るよと。きちんと働く場がある、遊ぶ場所がある。そういう中で1日仕事を終えてゆったりとしたやすらぎを求めながら、自宅でくつろげるような、あるいは、休日には家の近くで子供と一緒にゆったり過ごすこ





ともできるような、こんな両方の魅力を兼ね備えたまちをつくっていかうではないか、  
こういう意味合いの方向性であります。

本日の広域連携サミットの開催につきましては、各市にも存在いたしておりますが、  
にぎわいややすらぎ、これらにつながる魅力的な観光資源を売り出し、9市によって広  
域連携についてそれぞれ悩み、あるいは将来目標について議論を進めてまいりたいと考  
えております。

ご存じのとおり本市には、昭和記念公園がございます。来園者が年間420万人とも言わ  
れている国営公園でございます。そこへ行く途中には、立川駅北口の大規模なショッ  
ピングモール、あるいはデパート等がございます。大変にぎわっております。

また、自衛隊の立川飛行場をお借りして、花火大会、あるいは箱根駅伝予選会、それ  
から市民マラソン大会等、滑走路を走るマラソン大会の場所にもなっておりますが、こ  
のようなことを開催することで、にぎわいに大きく貢献しております。

こういった市内にあるイベント、観光資源をどう結びつけ、来街者の回遊性の向上を  
図っていくか。また、情報発信のツールや、例えば観光ガイドマップ、ウェブサイト等  
の各種媒体を活用した発信力をどう強化していくか。さまざまな課題が存在すると考え  
ております。

そういった現状、あるいは課題を踏まえて、広域連携における具体策について各市の  
皆さん方と議論をしてみたいと考えております。以上でございます。

(ファシリテーター 保井教授)

昭島市、臼井市長よろしくお願ひします。

(昭島市長)

皆さんこんにちは。臼井でございます。  
昭島市をPRさせていただきながら、お話を  
させていただきたいと思ひます。

まずこのサミット、今、立川の清水市長  
からもお話がありました。清水市長を中  
心にしながら、我々8市がついてきたとい  
うことでございます。清水市長、ありが  
うございます。

私からは、昭島市のことについてお話を  
させていただきたいと思ひます。昭島市は昭

和町と拝島村が昭和29年に合併して、昭と島をとって昭島となったわけでありま  
す。私は、生まれも育ちも拝島でございまして、近所の神社仏閣については拝島大師、日吉神  
社などがあり、拝島大師におきましては、正月の三が日は、その前を通るとほんとうに  
原宿の竹下通りのようなにぎわいです。3日間だけはそうですが、今朝、家を出るとき  
は、あまり人がいませんでした。今度、拝島大師に五重の塔ができますので、多くの  
人に訪れていただきたいと思ひしております。ほんとうに3日間にはにぎわっている  
のですが、それ以外がなかなかにぎわっていない。そしてまた、東京都の無形民俗  
文化財に指定されている日吉神社榊祭、夜お祭りがあるのですが、そのときにはに  
ぎわいます。

奥多摩街道沿いにも大神の駒形神社、そして中神の熊野神社、宮沢の諏訪神社等々あ



るのですが、そうした神社仏閣を生かし切れていないという中で、今年で9回を迎える郷土芸能まつりを昭島駅の北口にある昭和の森で5月に開催させていただいて、山車を出したり、おみこしを担いだりして、大変なにぎわいを生んでいます。奥多摩街道から外へ出て、こういう昭島の伝統と文化があるんだということを市民の皆さんと共有したい。加えてお買い物に来られた方、9市の市民の皆さんもそうですが、一緒に昭島のそういう伝統文化を見ていただきたいという思いで、今、取り組んでおります。

そして昭島の場合は、17.34km<sup>2</sup>の中に、青梅線5つの駅があり、拝島駅には八高線、五日市線、西武線が乗り入れております。

最近では、東中神駅の橋上駅舎化を進めてまいりました。47億円をかけて取り組んでいる大きな事業であります。国や東京都からも補助金をいただき、現在建設中ではありますが、一部共用開始をいたしております。昭和記念公園の西の玄関口として、多くの人に訪れていただけるよう、力を入れていきたいと思っております。

そして何といたっても昭島のブランドとしては、深層地下水100%の水でございます。約30年前に降った雨が浸水して、約70mから100mのところから取水しているお水でありまして、皆さん飲んだことありますか。ぜひ飲んでいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それから、昭島駅北口周辺には、昭和飛行機工業様さんの、ゴルフ場、テニスコート、そして、東京2020オリンピック・パラリンピックの正式種目となったクライミング施設があります。リード、ボルダリング、スピードと3つの種目を行うスポーツクライミングです。国際連盟が公認するスピード専門の人口壁が全国で初めてつくられたということで、先般、世界大会が行われ、私も行きましたが、そうした施設があります。

そして2019年は、オリンピック・パラリンピックの前にラグビーワールドカップが開催されます。今度、栗田工業さんのラグビーのグラウンドが昭島駅から3分のところに整備されることになりましたので、ぜひそうしたオリンピック・パラリンピック、そしてラグビーワールドカップに向けて、9市一体となって連携しながら、町おこしをしていったらおもしろいと思っております。以上を提言させていただいて、終わらせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

(ファシリテーター 保井教授)

小平市、小林市長よろしくお願ひします。

(小平市長)

皆さん、こんにちは。小平市の小林でございます。昨年度に引き続きまして、今年度もこうして広域連携サミットが開催され、9市の市長が一堂に会することができました。大変うれしく思っております。また立川市さんには、ご苦勞をおかけいたしております。

さて、小平市は、都心から30分圏内の非常に好立地にありながら、豊かな自然が残る住みやすい住宅都市でございます。都市



小平市  
小林正則市長  
人口: 19万1,496人  
面積: 20.51km<sup>2</sup>  
じょうすいこぼし (玉川上水)

の特性であります利便性の高さと、ふるさとのイメージにあった緑に包まれた環境にあり、都会と田舎の両方のよさを併せ持った、「都会から一番近いプチ田舎」をキャッチコピーに観光事業の展開を図っております。

また、市民が地域に愛着を持ち、「住み続けたい」「新たに小平市に住んでみたい」と考える人が増えていくように観光を切り口としたまちづくりに現在取り組んでおります。先人の開拓の歴史があり、発展をしてきたまちでございます。玉川上水の分水であります用水路には、現在でも、350年ほど前の開拓当時に近い風景が広がっており、緑豊かな空間を形成しております。用水路が市内の中で50kmにも及び、親水整備をしている箇所を中心に、市民の皆さんが親しむことができる貴重なものとなっております。

観光につきましては、昨年6月に地域主体、民間主体で観光まちづくりを進める「こだいら観光まちづくり協会」が設立されました。事業の推進に当たりましては、会員によるワーキンググループを編制し、企画から事業の実施に至るまで、会員の目線で進めていく体制を整備いたしております。地域資源を観光資源に結びつけるために、市民、事業者、各種団体が相互に連携し取り組むことで、小平市の観光まちづくりの推進にとって重要であると考えております。

広域的な観光への取り組みにつきましては、現在、小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市におきまして、多摩北部都市広域行政圏協議会を組織し、観光専門部会を設けて、観光情報の共有化を図っており、情報発信ツールとして公式ホームページのたまろくナビを整備運用し、広域的に各市の魅力をもPRしております。多摩地域全体として大きな観光資源がない中で、市民が地域のよさに気づき、それを発信することで、地域内外の交流が活発になり、地域の活性化が図られると考えております。具体的な広域連携の施策といたしましては、歴史的遺産でございます玉川上水を観光資源として「まちあるきコースマップ」などを作成し、沿道の見どころや魅力ある商店を紹介したり、各市の観光名所を巡るツアーなどを実施し、あるいは、小平市にはオープンガーデンとして庭を開放して下さっている家もいくつもありますので、それらを含めた各市の花の見所のPRなどが考えられます。

また、食の視点を取り入れた観光振興として「武蔵野うどん」の文化を広域的に宣伝するために、うどん店のスタンプラリーの実施や各市のご当地グルメの祭典の開催などが考えられます。

また、鉄道事業者との連携も視野に入れて、ラッピングトレインなどによる広域的なPRも考えられます。

我々9市におきましては、立川市をはじめとした商業圏を核として、にぎわいが創出されている一方で、小平市には樹木や紅葉があり、癒しの空間が広がっています。にぎわいと癒しの空間を9市一体となってつくってまいりたいと考えております。

以上でございます。

**(ファシリテーター 保井教授)**

日野市、大坪市長よりしく申し上げます。

**(日野市長)**

皆様こんにちは。日野市長の大坪冬彦でございます。今回は2回目の9市の連携サミットということで、清水市長を初めとする各市の方々のお骨折りによりご参会できまし

た。誠にありがとうございます。

日野市の観光の現状ということでお話をさせていただきます。2つばかり柱立ててお話をしたいと思います。1つは、日野市は何ととっても新選組のふるさとであります。これを全国に発信して、観光をやっ払いこうということでございます。幕末に活躍した新選組の副長の土方歳三、そして六番隊隊長の井上源三郎が生まれたまち、剣術修行を積んでという

ことで。また、日野市にある佐藤彦五郎や剣術道場にこの二人を含めて近藤勇をはじめとする新選組の剣士たちが剣術修行を積んで、ここを起点に新選組がやがてつくられるわけであります。そういう意味で、まさに新選組のふるさとだなと思っております。

土方歳三の命日にちなんで、5月の第2日曜日、毎年新選組まつりを行っております。平成29年度には20回目を迎えております。来場者数が大体4万7、8千人ということで、非常に盛り上がっております。

この祭りの特徴は、市内のさまざまな自治会や農業者、在日外国人などが代官、侍、町娘に扮装してパレードに参加する。そして全国からの新選組ファンが訪れて、隊士に扮します。1番隊隊長、2番隊隊長、さまざまな隊士に扮するのですが、それに扮するためには前日にコンテストがあって、そのコンテストで選ばれて初めて隊士になれる。ですから全国の新選組ファンは、隊士になるためにわざわざ日野市にやってくるという、大変盛り上がりを示す祭りでございます。そんなことで、全国に新選組を発信している。

新選組はかなり人気がありまして、特にアニメの『薄桜鬼』など、いろんなアニメがつけられていて、それをきっかけに全国、そして海外でも人気を博しているのが新選組まつりでございます。

今、日野市、ふるさと納税の返礼品ということで、このアニメ『薄桜鬼』のタペストリーを返礼品に活用したところ、これだけで短い期間に500万円の寄付をいただくということがありました。そんなことで、新選組を特に推しているということでございます。平成16年に大河ドラマで新選組があって、それをきっかけにいまだにこのブームは衰えないということで、これを全国に発信しております。

それからもう一つが、高幡不動尊、そして多摩動物公園という都内でも有数の観光地があります。高幡不動尊は、関東三大不動、高幡不動尊金剛寺であります。仁王門や重要文化財があります。2万点の貴重な文化財などを今に伝えております。またそこを舞台に、もみじ灯路やあじさいまつり、節分、彼岸花のお祭りなど各種イベントを開催しております。年間200万人もの観客が訪れる名所でございます。

そしてもう一つが、多摩動物公園でございます。こちらは柵がないことを観覧の基本とした日本で最初の動物園。面積が50haという、非常に広大な、世界屈指の広さを誇る動物園であります。ライオンバスは皆さんもご存じだと思います。現在ちょっと休止中でございますが、やがて復活すると思っております。

ほかにオランウータンのスカイウォークであるとか、こちらも100万人の観客の方が年





間見られます。そのような観光資源があるということでございます。

そのほかに、日野のブランドとして、明治初期につくられた多摩地域最古のTOYODA BEERというのがあります。これを平成27年に復刻して現在売り出しております。それから障害者の施設と農業者、商業者がコラボレーションして、焼きカレーパンというブランドのパンもつくっております。そういう観光の特色もありますが、観光の課題としては、今申し上げた施設が点となっていて線でつながれていないという、回遊性をどうするかということ。それらをつなげてどう結びつけたらいいだろうというのが、日野市の抱えている課題かなと思います。

また、先ほど申し上げた高幡不動尊、そして多摩動物公園は有名であります。それが日野市にあることをご存じない方がたくさんいらっしゃいます。これをどうするかというのも大きな課題となっております。

またもう一つ、日野市にはホテルはありますが、小さな素泊まりのホテルしかありません。やはり観光というのはリピート客を増やしていくためにも、そして滞在していただくためにもホテルが必要だと思っております。それをどうするかということがこれからの課題だと思っております。これら資源を生かしながら、どうやっていくのかというのが大きな課題であると思っております。以上でございます。

(ファシリテーター 保井教授)

国分寺市、井澤市長よろしく申し上げます。

(国分寺市長)

国分寺市の井澤でございます。今日は第2回目で、観光というテーマでございます。

ご存じのように、国分寺市はあまり面積が広くないのですが、中央線の駅が2つあり、また西武線も2本通っているということで、交通の要衝でもあります。先ほど保井先生からもお話がありました。やはり、市民の、住んでいる方々がこの市は住みやすい、そして住み続けたいと思われるような、そういう市でなければ、外から来た方や、観光に来られた方にもすばらしいとは思っていただけないのではないかと考えております。そういう意味で、国分寺市の魅力を再発見、再確認しようということを平成26年度から始めました。機構改革で市政戦略室という部署を設けて、シティプロモーションをそこからスタートさせていただいたところであります。

ご存じのように、全国の自治体の名前为国分寺という名前がついているのは唯一、東京都の国分寺市だけになりました。国分寺は、全国68ヶ所に建立され、武蔵国の国分寺は、そのうちの最大級の規模をもっている国分寺ということでありまして、この魅力をもう一度アピールしようということで、今、国のお力も借りながら、史跡の整備等をするると同時に、訪れてくださる方を増やしていこうということで、様々な整備をしているところであります。ご存じかと思いますが、市内には国分寺崖線と呼ばれるところがあり、世田谷のほうまで崖線が続いています。そこから湧く湧水、水がすばらしいという





ことで、ロケーションも非常に注目を浴びております。

最近特に、高齢者の方々がウォーキングを兼ねて散策される姿をよく拝見いたします。都立多摩図書館が、立川から当市のほうに移ってきたという効果も大きいのかと思いますが、西国分寺駅を降りて史跡を周っていただき、都立多摩図書館で読書を楽しむ方が増えてきておりました、そういう場面を逆に市民の方々が見ることによって、国分寺はやはり素晴らしいということをもう一度確認していただけているのだろうと思っております。

住環境がいいということは、やはり子育てもしやすい、そういうまちであると思っております。若い方々が、こういう自然の中で子供を育てたいという、そんなご意見も聞けるようになってきました。そういう意味で、自然と歴史と文化、史跡を生かしながら、今、国分寺の魅力を高めております。

そのほかに都心から20分強で来られるまちとして、中央線で緑が見えてくると国分寺だと言っていただけのような状況でありまして、その大きな役割を果たしているのは史跡ではありますが、もう一つ大きな要因は、都市農業、農地ではないかと思っております。そういう意味で、農地の保全ということも大きな課題として掲げております。やはり相続などが発生して、自然に減少していきませんが、そういう中であって、農地をしっかりと確保していくということがこれからは必要だということで、「こくベジプロジェクト」という事業を始めまして、300年、江戸時代からの新田開発によって生産が始まった農産物をぜひアピールしていきたいと考えております。そのことによって、農家が元気になり、また後継者が育ち、そしてそれを市内の事業者、今60を超えましたが、飲食店にご協力いただき、直接生産者から仕入れていただいて、訪れた方に食を楽しんでいただいております。このことによって農業も活性化し、そして農地の保全も図るということです。

そのほかに科学のまちとして、新幹線、そしてペンシルロケットの、最初の発射実験が行われたまちであるということをおアピールしているところでありまして、これからもこういうことを確認しながら、またさらに国分寺の魅力を市民の方々と確認していきたい。それが観光につながっていくだろうと思っております。以上です。

(ファシリテーター 保井教授)

国立市、永見市長よろしく申し上げます。

(国立市長)

皆さんこんにちは、永見でございます。これで6市目ですか、聞かせていただきましたが、なるほど各市にはいろいろとあるなど改めて思ったところがございますが、私どものまちは、立川の隣ですから、先ほど清水市長がおっしゃられた昭和記念公園が立川市にはあるし、花火大会はあるし、箱根駅伝の予選会があるし、マラソン大会はあるし、何十万人という方が集まってその回遊性を生んでいる。では、国立市はそ



れに対して何があるのだろうかと考え、これ、どう考えていったらいいのかと、観光という切り口でどう考えていったらいいのかということをつくづく考えさせていただきました。

国立というまちは、ちょうど外村集落としたら江戸時代からの流れの部分、江戸時代以前ですね。それから90年前に開かれた大学町の部分と、2つに大きく分かれます。中間に富士見台という50年前の町が入りますが、大きくは2つの地域。そして、市域が8.15km<sup>2</sup>ということですから、大学町で8.15km<sup>2</sup>、人口が7万人少々ということは、このポイントだ、このポイントだということではなく、まちそのものが一つの魅力を有していないとこれは聞えないなというふうにつくづく思っております。ですから欧米の大学町というのが、例えばケンブリッジでもそうですが、10万人いかないような都市で大学を核として、緑豊かである、文化性がある、こういうものを第一に追求しなければいけないのだろうと思っております。

そして国立の特徴は、その瀟洒（しょうしゃ）なまち並みと、もうすぐ復元しますが国立駅の三角屋根駅舎。そして大学通り、それから個性ある商店街、そして南部地域と湧水、ハケに畑、緑等々、多様な顔を持っており、このこと自体を一つまちの売りになさなければならないと思っております。

立川市があつて、国分寺市があつて、国立は何をねらうかと。私自身の個人の感性からすると、旧山手通りの代官町の落ち着いた文化的な感性のまち、これ自体が集客性を持てるのではないかと思っておりますが、観光という言葉と若干違和感があります。それはそこに住める、そしてそこを訪れる、充実感、楽しさ、そして自分自身の満足感みたいなものが味わえるまちをつくっていくことだろうと思っております。

国立というまちは、観光まちづくり協会という民間の団体が早くから活動していただいております。例えば、フィルムコミッションをお願いしております。国立で言いますと、28年度でロケの回数というのが80件ぐらい、実際にロケが行われた回数が80件ぐらいになります。ですから、ロケハンはもっと多いまちでございます。そしてモスクワ映画祭で賞を受賞した『四月の永い夢』という映画がございます。もうすぐ一般公開されると思っておりますが、これの大半は国立でロケーションが行われているということで、まち自体の個々の小さな魅力そのものが全体として魅力を高めていくことになる。

それで国立が連携して何ができるかということ。一つは9市全体で、ブランド、名称をやはりきちっとつくっていきたくて思っています。それからもう一つは、これだけ各市、9市の特性が違うわけですから、その特性の上に文化の網をかけたいと思っております。例えば、瀬戸内国際芸術祭のような、現代アートがそれぞれまちに期間限定で行われ、そして、それをさまざまな方が9市を巡るというようなことを、例えば3カ月続けたら大変なことになるのではないかと思います。そこにそれぞれのまちが、国立なら国立の文化、例えば日野市さんだったら日野市さんが持ってきた新選組の文化と現代アートがどう組み合わせさっていくのか。そういうような付加価値をつけてアートを軸に観光を進めることで、それが共通の資源になるのではないかと考えております。

**（ファシリテーター 保井教授）**

福生市、加藤市長よろしく申し上げます。

## (福生市長)

こんにちは、福生市でございます。福生市はこの9市の中で一番小さな市、まちでございます。何が小さいかといいますと、もちろん人口も6万人弱でございますが、10km<sup>2</sup>のうち3分の1を横田基地に提供しています。ですから、東西4km、南北約2kmの中に6万人がお住まいになっているということで、人口密度は結構高いまちでございます。そして、ほかの8市は武蔵国、旧武蔵野の面影を色濃く残しているところが多いわけですが、福生市は、異端のまちであり、冒頭、清水市長が、「脱基地のまち」とおっしゃいましたが、文字どおり福生市は、自他ともに認める「基地のまち」であり、青梅線の半分に広がっているまちでございます。

しかしながら、青梅線の玉川上水沿いには2つの酒蔵がございまして、その間には90の蔵がまだ点在しているというふうに、二面性を持った市でございますので、今、私どもの事業の中で、レンタサイクル事業をやっております。その中で本当に2時間もあれば、和と洋の文化を味わえる非常におもしろいまちではないかと思っております。

西多摩の玄関口として商業の発展を支えてきたまちでございますが、なかなか今、難しくなってきました。西多摩全域で人口減少も始まっており、私どもも何とかそれを支えて、抑えていくのが大変なところとなっておりますが、みんなに頑張ってもらって、今はその減少も止まっている状況でございます。

その中で、ここでお話をしなければならないというのは、今月の初め、トランプ大統領が横田に降り立って、そして韓国に向けて離陸したわけですが、もうそのときには右から左までの思想の方が大勢集まってきておりますし、それこそお巡りさんもいっぱい集まって、このまちがこれまで有名になるのはなかなかないと思っております。

それぐらい基地とは切っても切れないまちでございますが、この中で今回のテーマでございます「広域連携による観光施策の推進」あるいは「多摩の魅力を生かした観光振興に向けて」という題でございますが、よく横田基地の中に私は入って、米兵あるいは自衛隊の方たちとお話しするんです。大体、米兵というのは、赴任して2年のサイクルで違う基地のほうに旅立っていくわけですが、そのときに「日本に来てどこに観光に行かれました？」という話をしますね。そうしますと、大体奈良、京都、鎌倉あるいは富士山という話も多いですし、東京都内ということも、都内というか、ここも東京ですから、23区内ということも話をさせていただきます。しかし、「多摩にもいいところがありますよ」と紹介するわけです。そうすると、米軍の人たちは、「じゃあ、教えてくれ」と。どういうところが多摩の魅力なのかと、私のほうから具体的に話をするときには、レンタサイクルもあるし、しかも川崎の六郷まで多摩川沿いにずっと行くと大体50kmです。そういうところをサイクリングで行って見たらおもしろいよというお話をすると、実際に行くんです。

行くときに必ず言うことがあるのが、「グランドデザイン」です。私ども、60カ国近く





の人がお住まいになっています、基地のまちです。そういうところで一番困るのは、案内板等です。私どもで13カ国ぐらいの言語が流通しているわけですが、その部分で6カ国語の対応はしております。しかしながら、まちからまちに移っていくと、案内板が違って来る。これはまちの特色ですから非常におもしろいものもあるとは思いますが、ある意味、フォリナー・トラベラーにとってみると、なかなか難しくなってくるという部分があります。広域の中でこういうことも少しずつ考えていかなければならず、お金も相当かかりますので、さまざまな部分で施策として考えていかなければならないこれからの着眼点ではないかと思っています。

以上でございます。ありがとうございました。

(ファシリテーター 保井教授)

東大和市、尾崎市長よろしく申し上げます。

(東大和市長)

東大和の尾崎でございます。それぞれの市の皆さんから、それぞれの魅力を聞かせていただいたところでございますが、東大和市ということで、多摩地域の最も北側に位置して、都心からも三、四十分ぐらいの距離にあるわけでありまして、狭山丘陵や多摩湖等、豊かな自然のあるまちだと思っているわけでありまして、人と自然が調和したまちを目指すということで、将来像はそんなふうになっているわけでございます。

そんな中で、観光資源として多摩湖、狭山丘陵、自然と、そのほかに貴重な戦災建造物であります旧日立航空機株式会社変電所、あるいは東京都の指定文化財であります豊鹿島神社、プラネタリウムを併設した郷土博物館などがありまして、市の北側のほうからずっと歩いていきますと、いろいろと楽しんでいただけるまちであるだろうと思っています。

また、大勢の方にお越しいただくという意味で、観光イベントということで、「うまかんべえ〜祭」、あるいは市内の人気スイーツを食べ歩く「ひがしやまとスイーツウォーキング」、こういうふうなものを開催しているわけですが、そういうときには本当に市外から大勢の方に来場していただいております。うまかんべえ〜祭は、6万人前後の方に今年は来ていただいております。

いろいろとあるわけですが、これらの観光スポット等をいろいろと紹介する観光マップなどの冊子等も作成しています。ぜひ皆さん方にも一度お越しいただければと思います。

また、今年の4月には、東大和市ブランド・プロモーション指針を策定しまして、人口減少の抑制や、シティプロモーションの推進に取り組んでいるところであります。市のブランド・メッセージということで、「東京 ゆったり日和 東やまと」ということで、私どもは、先ほど言いましたように、人と自然が調和したまちということで、そんなまちを目指している、そんなまちのブランドにはぴったりかなと私自身は思っているわけ



であります。また、ロゴマークも、今、映されていますが、のんびりゆったりとしながら、そんな感じのロゴマークも発表したところでございます。まず、私どものほうの東大和の特徴、住みやすさ等をあらわしたメッセージロゴを活用して、今後市の魅力を発信していきたいと思っております。

また、私ども東大和ということですが、来年は明治維新150年ということで、東大和は、特に自由民権運動の三多摩の発祥の地とも言われてございます。そういった意味で、そのとき地域の中で熱く語られたいろんな集会等の記録が残ってございます。そんなものの熱い想いを、来年あたりぜひソフト面からアピールしていければと思っております。

私ども、いろいろとあるのですが、南のほうから北のほうに向かって歩いていくということで、先ほど加藤福生市長がおっしゃっていたように、南北が4kmで東西が2kmとかおっしゃっていましたが、私どものまちも大体似たような大きさということでございます。2kmが3kmか4kmぐらいにちょっと増えますが、ちょうど四角の非常にコンパクトなまちで、北側のほうには空堀川等を含めて、非常に緑豊かなものがございます。

そんなまちであります。私どものほうの大きな課題は1つ、宿泊施設がないということです。ですから、そういった意味では、日帰りという意味では、立川市さんのホテル等、施設を使いながら、周りの市町村をうまくつなげながら、周回できるような、そんな感じの観光ツアーのようなものとか、あるいはグルメツアーのようなものが考えられればいいのかと思っております。

これからも東大和の魅力、いろんなところで発信していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(ファシリテーター 保井教授)

武蔵村山市、藤野市長よろしく申し上げます。

(武蔵村山市長)

皆さん、こんにちは。武蔵村山市長の藤野でございます。

実は私、11月5日から8日まで4日間、モンゴルへ行ってきました。そこで、モンゴルの新モンゴル高校の子供たち約二、三百人が大講堂に集まる中で、講演を頼まれました。モンゴルの子供たちは大変日本に興味がありまして、東京は知っておりました。武蔵村山市というところを全く知るはずがありませんが、都内のことは知っていたようでした。

武蔵村山市というのはどういう場所なのか、その子供たちにどう説明しようかと思いましたが、「立川市の北側です」と言ってもわからないと思います。「西武ドームの南側」と言おうかと思いましたが、わからない。「新宿から30km圏内である」という話をしてもらえないだろうと思って、ふっとひらめいたのが、武蔵村山市は狭山丘陵の豊かな自然に囲まれた町だと、これを売りにしているからにはと思ひまして、「トトロの森」





のお話をしました。そして、トトロの歌いだしの部分をしっかりした音程で歌いました。そうしましたら、その会場はうわっと盛り上がりました。このことで、このモンゴルの子供たちも、日本のアニメ、要するにトトロの森は十分知っているんだということを感じました。

そうしますと、武蔵村山市の売りはこれではないのかと、そのときに感じました。武蔵村山市には、先ほど言った自然がすばらしい狭山丘陵があります。そして、武蔵村山市には、市が掘り当てた村山温泉「かたくりの湯」というものもあります。年間20万人の方にご来場いただいて、今は館が大分傷んできて休んでおります。そして、1年間を通して季節感を体感できるいろいろなイベントが武蔵村山市で催されております。桜まつりがあったり、菖蒲園であったり、ひまわりガーデンであったり、第40回目となる花火大会があったり、村山デエダラまつりがあったり、食の祭典のフードグランプリがあったり、ウォーキングイベントなどがあります。

特に外国人が好まれるだろうと思ったのが、羽村の堰から村山まで水を送る導水管が来ています。そこに桜の回廊がずっとありまして、そこをライトアップすると何とも幻想的です。その桜の回廊を過ぎた後に、昔、軽便鉄道がありまして、トロッコが走っていたトンネル群が5つあります。要するに、狭山湖を掘った砂利を軽便鉄道で運んでいた、今の電車のような大きいトンネルではないのですが、本当に幻想的なトンネルで、そこにミニSLを走らせたり、その中に灯籠を置くととても幻想的で、こういうものは皆さん、大変喜ばれるのではないかと思います。

何といっても、武蔵村山市は、皆さんご存じのとおり、鉄道が走っていないまちで、今、モノレール誘致のため、都議会議員や市議会議員の皆さんに大変お骨折りをいただいて、用地買収が新青梅街道約6.7km、箱根ヶ崎まで進んでいます。外国人をお招きしても、そういう回遊性がないまちなので、ぜひこちらに立ちどまっていただくようなことを考えていこう。そんな思いを持っておりまして、武蔵村山市も自然を満喫していただくようなツアーを組んでいきたいと考えております。

外国人の旅行者が急増しまして、10年間で約2.6倍、東京オリンピック・パラリンピックまでには2,500万人もの外国人が訪れるだろうと推測されています。多摩であっても、都内から奥多摩、西多摩のほうへ直接行くことなく、武蔵村山市に立ちどまっていただくような、そういう観光施策をこれからつくっていかねばいけないだろうと思っております。

お時間いただきましてありがとうございます。終わります。

**(ファシリテーター 保井教授)**

どうもありがとうございました。

一通り、それぞれの市における観光施策、それから今の行政課題等についてのお話ありがとうございました。

ここから少し休憩を挟ませていただいて、第2部のほうに入っていきたいと思います。

**(司会)**

再開は、16時45分とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。また、会場を出たところに、各市の観光情報等の展示コーナーを設けてございますので、興味ございましたらぜひご覧ください。

## 【休憩】

### (ファシリテーター 保井教授)

では、再開させていただきます。

先ほど、各市の状況、それから観光のお取り組みのほうについて伺いました。そちらを踏まえて、後半は、9市で広域連携について議論を進めてまいりたいと思います。もう一巡させていただきます。休憩の間に、今度は逆から回そうというご提案がございましたので、今度はある意味、新しいまちからというような順番になるのかと思います。

今回は特に、広域連携に関してどんな取り組みを進めていったらいいか、あるいは何かから始めていったらいいか、その体制はどうするか、そのような形のテーマにつきましてまたご意見をいただければと思っております。

では、一応5分、お話ししていただければと思いますが、絡みのトークは、ちょっと時間が余っていますので、5分丸々お使いにならなくても、少しその後に議論できればと思います。

では、まず武蔵村山市の藤野市長からお願いします。

### (武蔵村山市長)

広域連携のお話ということですが、先ほど言い漏らしたことがあります。福生市の加藤市長や立川市の清水市長が「基地のまち」というお話をしましたが、ご多分に漏れず武蔵村山市も、少しではありますが、横田基地に6.4%ほど土地を提供している部分があります。その中で、これも賛否両論あるんですが、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、横田基地の有効利用という部分はとても必要ではないかと、これは言っているかどうか分かりませんが、軍民共用化というお話がいろいろ出ていますが、もしかすると選手団が横田基地へ降りてくるという可能性もなきにしもあらず。そうしますと、都内へ行くには、必ず武蔵村山市を通過しますので、そのようなことで、うまく効果が表われないかという、加藤市長等には聞こえないようなお話をさせていただいて、その補足をさせていただきます。

そして、まだまだ武蔵村山市では、無料のWi-Fiの利用環境が悪い状況でございますので、ぜひその時期までには無料Wi-Fiの環境整備をしていきたいと考えております。

広域連携についてお話をさせていただきますが、先ほど狭山丘陵のお話をさせていただきましたが、東大和市や東村山市と、NPOを交えた狭山丘陵観光連携の推進事業を今年度からスタートしております。小平市とは、江戸時代の新田の開発ということで歴史的な縁があります。このような歴史を縁とした連携もこれから結んでいけるのではないかと感じております。それ以外にも、武蔵野うどんのお話もありましたが、うどんであったり、ミカンであったり、ブルーベリー等を通じた連携事業をしていきたいと思っております。そして、ヒマワリ畑もありますので、清瀬市とも今年は連携させていただきます。



その中で、私は今まで職員の人事交流のお話もさせていただいておりますが、私が9市で特に交流をしたいというのは、婚活交流ということを考えております。職員同士のお見合いや婚活交流のような事業をしていただくと、私たちの職員もなかなか結婚しないという職員がいるものですから、そのようなことで婚活交流を広めていただいて、職員同士の婚活が一段落したら、市民との婚活交流というの、商工会などを通して実現していけるというのではないかと感じております。

それともう一つ、大きなお話として、多摩地域にはMICE施設がありません。こんな中でMICE施設の充実をぜひ図ってほしい。9市が交流できる、立川を中心とした国際会議のコンベンションルームであったり、展示会、エキシビションの展示室だったり、わざわざ都内のビッグサイトまで行かなくても、立川市か、あるいはこの近隣の大きな土地を利用したMICEの施設をつくっていただいて、ぜひ9市の合同展示とか、9市による環境のいろいろなものの展示などをしていただければ、私たちとしては身近に、市民の皆さんが近場で利用できる、そのようなMICEの施設をつくっていただきたいという強い要望があります。

どうしても立川市等が無理であったら、武蔵村山市にご相談いただければ、大きな土地もあいているようでございますので、そのときはまたお話をさせていただきますが、こういう施設も広域連携には必要な施設ではないかということも私も感じております。

以上でございます。

**(ファシリテーター 保井教授)**

ありがとうございました。

ここからは、本当に一緒にやっというこのご提案ですので、前に発言された方の言葉の中でそれを膨らませたり、追加していただいたりということがございましたら、市長さんのほうで少し声をかけていただければと思います。

では、東大和市の尾崎市長のほうにマイクをお願いします。

**(東大和市長)**

藤野市長から、基地のことや婚活交流ということで、婚活交流、東大和市は市民を対象にここで始めるのですが、今は職員対象だということなので、東大和市にも若い職員がいますし、それから、最近は採用人数でいきますと、年によっては6割ぐらいが女性だったというときもありまして、非常に私どものほうの東大和は優秀な若い女性が多いところなので、9市の市長さん、よろしく願いいたします。

軍都多摩ということで、いつも思っていることですが、多摩というのは、昔は軍都多摩とか空都多摩と言われているような、そういう時代があったわけですが、そして、東京は大空襲ということで多くの方が被害を受けたというか、被害者になっているわけですが、ただ、そういうことをお話しすると、どうも空襲に遭ったとか亡くなられたとか、そういう被害者的な意味合いがすごく大きいと思っているんですが、多摩には確かに空襲がたくさんあったわけで、多くの方が亡くなっているという事実もそのとおりでありまして、私ども東大和市でも110名を超えるような方が空襲で亡くなっているわけ



でございます。逆に言うと、軍都多摩と言われるくらい、東大和を含め、多摩には軍需工場が非常に多くあったということで、逆の立場で言いますと、軍需工場というのは武器をつくる場所ということですから、加害者でもあったのではないかとといった考え方もあってもいいと思っています。

被害者であると同時に加害者の立場であるということで、そういう視点からもう一度、多摩を見直していきますと、外国の方も興味が湧くようなツアーのコースがつかれるのではないかなと思います。そこにそれぞれの市の文化や歴史、そしてグルメ等をくっつけあわせていくと、ただ文化、グルメだけではなかなか人を呼ぶというのは難しいかなと思います。どこのところもみんなやっていますので、そこに、今言ったようなものがつながるといって、くっついていきますと、インパクトのあるようなツアーが組めるのではないかなとねがね思っているわけでありまして。

そういった意味で、政治的な問題とか、いろんなことが厳しいというところもあるかと思いますが、ただ、もうじき東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、オリンピックというのは平和の祭典だと言われておりますが、最近では平和の部分が少ないかなと思っておりますので、そういった意味では、そのようなものをうまく組み合わせることで、今までと違った次元の観光ツアーがつかれるのではないかなと思っております。

それ以外にも、各市と協力しながら、9市を回遊する観光ツアーということがあってもいいかなと思っております。ぜひ、その辺も含めて検討ができればと思っております。以上です。

#### (ファシリテーター 保井教授)

ありがとうございます。もう既に横田基地の無料Wi-Fi、それから食の話が出まして、今度、尾崎市長から平和をテーマにした観光ツアーと、さまざまなアイデアが出始めているところなんです。

続きまして、福生市の加藤市長、お願いいたします。

#### (福生市長)

2回目のお話の中では、藤野市長が横田基地の話がされたので、なかなかこれから答えにくいところもあるのですが、この9市の中で、横田基地を取り巻く自治体5市1町中の4市がこの中に入っているんで、どうしても私どもは横田基地の話から始めなければならないかなと思っておりますが、ゲートが大きく福生のほうに向いているものですから、非常に影響を受けやすいまちだと思っております。

特に、つい最近でいいますと、沖縄で飲酒運転による死亡事故が起こると、なかなか、米兵も私どものまちにお酒を飲みに来るとか、そういうのが禁止になってくるものですから、大変影響をこれから受けるかと私どもも思っております。もう少し米軍のほうも自重していただかないと困るところがございます。

そこで、横田基地の有効活用ということもでございます。これはちょっと後回しにさせていただきますまして、まず、先ほど私の1回目のお話の中で、米軍人と軍属、横田基地の



中で約1万人、1万2,000人ぐらいお住まいになっているのではないかと考えています。ちゃんとしたカウントができない状況でございますので、はっきりした数字は言えないのですが、その人たちが多摩にぜひ観光として見えてくれればいいのではないかという話をさせていただきました。その際にレンタサイクルを使ったり、あるいは多摩の中のいいところを紹介してくれというような話もさせていただきました。

この休憩時間の中に、清水立川市長は早いですよ、うちもレンタサイクルやっているからどうだ、福生、一緒に提携しないかともうお誘いを受けています。望むところでございますが、ただ、立川市はお金持ちでございます、私どもはまだまだ財政的にも貧弱なところがございます。電動自転車がもう少しないと立川市と提携できないのではないかと考えておりますので、そこのところはこれからもう少し話させていただこうと思っています。

実はもう1つの部分ですね。多摩のすばらしいところを知らない、1万1,000人、2,000人の軍人、軍属が。それは、私どももそうですが、福生市ってどういうところだと言われてもわからないということで、七夕まつりとか、あるいはほたる祭、インターナショナルフェア、これは回数を数えてきて、七夕まつりなどはもう70年近く開催しているのですが、そういう観光財産がございます。しかしながら、やはり福生としてもつくっていかねばならないということで、福生ドッグとか、あるいはさまざまな部分、もつとほかにもあるのですが、積極的に福生を売ろうという部分もございます。

そういう意味では、ここで3分のプロモーションビデオをつくらせていただきました。1つは「What's UP Fussa」という、ラップ系で和と洋の文化を伝えます。それから、アニメーションを使って、お酒の酒蔵を紹介する「Tokyo SAKE Brewery」というふうなプロモーションビデオ。また、全く予算を使わず0円で職員がつくった「ブームとかじゃないまち」というのもつくらせていただきました。こうやって発信することが大事なことなので、ぜひこの9市で、担当、あるいは私ども市長、アイデアを出し合って、いいところを外国人の観光客でもわかりやすいようなプロモーションビデオもつくれたらいいのではないかと考えています。

ありがとうございました。

**(ファシリテーター 保井教授)**

ありがとうございました。さらに話が広がってまいりました。レンタサイクルの話、お金がないというお話もありましたけど、民間も一緒になってスポンサー、市長みずから営業していただいて、官民の大きな動きにしていくと、ひょっとしたらそういうことも乗り越えられたりするのかなというふうにも思いました。非常にたくさんのアイデアが出てまいりました。

では、そこを発展させていただければと思います。国立市の永見市長、お願いいたします。

**(国立市長)**

例えば国立の話をしてみると、あそこがいい、ここがいいとか、天下市と市民まつりで10万から20万の人が集まる。おそらくそういうことが観光資源としてどうだろうかということを議論する場ではないのだろうかと思っています。



今日は9市でどうかということなので、各市が市域にこだわって考えるのではなくて、この圏域の中で観光資源を、国立にある観光資源、福生にある観光資源、ここにある観光資源というのは、これは圏域の観光資源だというふうに捉えて、どうやって価値を発信していくかというような視点が必要ではないかなと思っております。

9市が一体となって観光施策を展開する、そのことによって今まで以上に全体の情報発信力が高まる。例えば、既存の観光資源だけでは弱いのなら、新たな観光資源を共同で作り上げていく。先ほどのYouTubeの話もそうだと思うのですが、私はそのように考えています。



そういう意味で、先ほど言いましたが、ブランディング、要するに名称がないということが致命傷だと思っています。これはうちの若い職員が考えたのですが、日常生活に新たな芸術が同居するまちがこの圏域だよとか、何でもいいんです、キャッチフレーズはブランディングで、普段着の東京観光が味わえる地域だよとか、あるいは都市農業を味わえる地域だよとか、あるいは歴史と文化の根づくまちで先端技術を磨いていますというようなことをキャッチにして、ブランディングにして、観光資源を結びつけていくというようなことが必要ではないかと思っています。

既存の資源で一番簡単に活用できるのは何だろうかと思ったときに、御朱印帳、例えば各市に神社仏閣たくさんあります。これ全部回ると最後に何とかありますみたいなね。1つの地図をつくって、これを自転車でもいいですし、さまざまな媒体で9市めぐってみると、最後にきれいな何かがもらえる。これは石和温泉もそんなことをやっています。かなり距離ありますが、非常に楽しくて、今、流行っていますから、こんなのをやってみてもいいのかなと思いますし、各市おそらく美術品を相当持っているはずで国立も相当持っていますが、こういうものを期間限定でそれぞれが提供し合って、各市で美術品の展示が開けるといようなこともあるのではないかなと思います。

それから、新しいものをつくり出そうという意味で、先ほど申し上げた瀬戸内国際芸術祭のような、それぞれの地域の特性に合わせて新たな付加価値の、例えば現代アートのものを3カ月間やる。それで、オリンピックに来た方がアートをこの圏域で回りながら楽しむ。しかもそれは自然的風土、文化的風土、歴史的風土、全て違うのですが、それに密着した新しいアートがそこで楽しめるとか、それを共同でやってみる。例えばプロデューサーも統一して置いてみるとか、何か新しい仕掛けをしながら、さまざまな仕掛けをしながら、この地域の圏域の魅力を観光という資源に結びつけていたらなと思っております。以上です。

#### (ファシリテーター 保井教授)

ありがとうございます。永見市長からは第1部のときもブランディングをこの9市の圏域で行うべきだというご提言をいただきました。その具体策についてさまざまな形でいただいたかなと思います。この辺、後で議論ができればと思います。

では、続きまして、国分寺市、井澤市長よりお願いいたします。

### (国分寺市長)

私は今、史跡関係で全国史跡整備市町村協議会の会長をやっているものですから、全国を回ることが多いのですが、そのときに感じるのは、地方の自治体は広いということです。面積からすると、この9市を合わせても1市に満たないような、そんな市が地方にはたくさんあります。



できれば、この9市を市ごとに分けしないで、9市を一体として、ブランディングという発言がありました。そういう形でまとめていってはどうかと考えます。せっかく今回、エキュート立川に観光情報センターができたわけですから、そこを中心として、この9市が一体となって観光を進めていってはどうかと思います。

この9市に共通するものもありますが、各市に不足しているものもありますので、それを補い合うというか、全体を1つと考えてしまえば、9市を1つとして考えてしまえば、その辺を補い合えるのではないかと思います。

1つには、やはり共通なものというのは、水に関係するものだと思います。多摩川があつたり、玉川上水に絡んでいたり、それから多摩湖があつたりということで、どの市もそういうものが共通にある。この自然のすばらしさ、また水の豊かさという点で共通しているもので、何かこれで組めるのではないかと考えます。

また、歴史からすると、やはり江戸時代の新田開発を中心としたまちの形成がこの9市にあったのではないかと考えていますので、その辺の歴史のつながりというものも共通項として活用できるのではないのでしょうか。

それから、昔から祭りがそれぞれ各市で、各地域で行われていると思うのですが、多少開催時期は違っていますので、その辺もあわせて祭りめぐりのようなものをつくりたいのではないかと考えています。

逆に足りないものは、圧倒的に立川市さんが宿泊施設を多く持つ一方、我々のところは少ない状況です。それからまた、大きな公園があるのも立川市さんですし、そういうところでイベントを、先ほど永見市長からもお話がありましたが、各市から持ち寄って展示を行うなどの取組をやっていけばいいのではないかと考えています。

いずれにしても、旅行会社とも連携しながら、この9市をめぐるツアーのようなものをつくってみると、意外と受けるのではないかと考えています。様々な企画が出ていると思いますので、ぜひ、その辺をお互いに研究し合いながら、補い合いながらやっていければいいと思っています。

それ以外の連携というのは、各市でそれぞれやっている部分はありますし、私どもは、小平市さんとも隣ですし、今日ここにおられませんが、府中市さんとも歴史のつながりをもとに進めております。そういう個々の連携はこれから強めていくとしても、9市共通のものを、また9市で補えないものをつくりながらやっていければいいと思っています。

### (ファシリテーター 保井教授)

ありがとうございます。水というキーワードが今出てまいりました。先ほど昭島市の

ほうからも冒頭でお話があったと思います。確かにおいしい水、地下から湧き出る水というのはこの地域の大きな資産、資源であります。そういうものもぜひ1つのテーマになるのかなというふうに思いました。

では、日野市の大坪市長よろしくお願ひします。

(日野市長)

今のお話を聞いていまして、2つあるのかなと思います。1つは、共通の文化資源があるとして、例えば先ほど神社仏閣も出ましたし、水も出ました。一里塚とか地蔵とか、どこの市でもありますから、そういう共通のものでどうつなげるかということで、例えばウォーキングツアーとかスタンプラリーという手もあると思います。

日野市と多摩市の間で、日野市は映像支援隊、多摩市はたまロケーションサービスとして、それぞれが『一週間フレンズ。』という、川口春奈さん山崎賢人さんが主演した映画のロケを、日野市、多摩市両方で結構たくさんの箇所で行いました。そういう共通で行ったということで、日野多摩ということで地図になって落としております。このような試みというのがこれから考えられるのではないかと考えています。

それから、先ほど「水」という話が出ました。私、実はへりに乗って立川の基地から飛び立って、ずっと都心を目指して下を見ながら飛んだことがあります。いい天気のもとで、スカイツリーぐらいまで行って、帰ってくるんですけど、そのときに下を見て感じるのが、多摩地域はほんとうに緑が豊富です。ところが、だんだん多摩地域を離れると、家ばかり、ビルばかり。都心に行っても、一部緑はありますが、全体としては緑が全然ないということ考えた場合、多摩地域というのはほんとうに水に加えて緑豊かなところでもあります。その緑を生かした連携ということも考えられるかなと思います。そういうこともこれから考えていければいいなと思っています。

その上でもう1つ、各市の特色を生かすということのつながりということがあります。国立市長さんから圏域としての考え、それから瀬戸内の芸術文化祭というのがありました。私も芸術文化祭をやっている直島に行ったことがありますけど、すばらしいですね。それぞれのまちにしかないものがあると思います。例えば日野市であれば、おそらく多摩動物公園とか高幡不動尊はほかのまちにないと思います。同じように、各9市の自治体にはその市にしかない売りがあると思います。それらをそのまちだけに閉じ込めるのではなくて、それらを点と点になっているものを線でつなぐということをしていくべきかと思っています。

私、先ほど日野市内でそれぞれの資源が点と点になってしまっていて、線でつながっていないというお話をしましたが、やはり9つの自治体において点と点を線で結ぶ、結ぶことによって先ほどの国立市長さんからありましたような瀬戸内の芸術祭に負けないようなものができるのではないかと考えております。そのためにどうすればいいかということこれからやっていくべきかと思っています。

日野市は27km<sup>2</sup>、大変狭いと思います。多分この9市、そんなに面積大きいところはありませんので、おそらく全体を合わせても地方に行けば1つの市というような面積でお





さまるかもしれませんが、そういう圏域と考えれば、つないでいくのはわりとできるのかなと思っております。

あとは、それぞれのお国自慢を少し抑えて、どう連携するのかということだと思えますので、そういう形でこれから取り組めればと思っています。以上でございます。

**(ファシリテーター 保井教授)**

ありがとうございます。小平市の小林市長よろしく申し上げます。

**(小平市長)**

小平の小林でございます。多摩地域というのは、今、大坪市長から話がありましたように、売りはやはり私は緑とっております。

江戸時代、小平の玉川上水は、1653年に玉川上水が敷かれて、小平市を含めて全く不毛の地であったところが、玉川上水を敷くことによって開拓が始まって、今日に至っております。私もそうですが、集団就職あるいは高度経済成長期に多くの方々が地方から、大半は23区に移り住んでいて、婚礼期になったときに、家を求め、多摩のほうに1960年、70年代、大量に住まれたわけです。今多摩地域は約400万人の人口ですが、多分今の400万人はその60年代、70年代で大半がその時代に移り住んだ方々と思います。



つまり、ほとんど定時制市民だったんです。日中は都心のほうに働きに行っていた人たちが、定年退職を迎えて、地域に戻ってきているから、地域のことを知らないのです。定時制市民が急に日常的に今度地域におられるわけですから、どこに行ってもいいかわからない。地域のことを知らない。私はそういうことで、もっと地域のことをよく知ってもらう必要があるのではないかということで、プチ田舎ということを掲げています。市の面積は約20㎏で、都心に近いが、その約1割がまだ農地です。体験農園をやっているところも4カ所ありまして、私は収穫祭などに呼ばれて行きますが、ものすごい参加者です。その方々はほとんどが元はサラリーマンです。定年退職した方が申し込んで農業をすることですが、これは、やはり多摩は開拓の歴史があり、緑が多いからできることです。まだ農業者が非常に多く残っておられますから、多摩は都市農業を売りにしていく。

私は、多摩は23区のようににぎわいを求める必要はないと思っております。この9市の関係だけで言えば、立川市や国分寺市が商業集積地として存在して、それを取り巻くように周辺にはくつろぎや憩いの場を提供していくという、こういった円形のように周辺に行くほど緑が濃くて、農業体験などができる、あるいは農産物がそこで生産されるといったような、都市農業をベースにした形でのまちづくりというのが必要ではないかと思っております。

**(ファシリテーター 保井教授)**

ありがとうございます。農業に関しても確かに多摩の特徴でありますし、国全体でも農業というのを緑に位置づけるという大きな方針が今年度出たところですので、多摩の観光の中で大きなテーマになるのではないかと思います。

では、昭島市の白井市長、よろしく申し上げます。



## (昭島市長)

市長さんのお話を聞いて大変参考になりますし、大変勉強になります。各市でも昭島市でも同様だと思いますが、観光というと、観光協会を設立して、そこで行政とタイアップしながら、お祭りやフォトコンテスト、ロケーションサービスなどをされているケースが大変多いように思います。それから、今後については、市としてもシティプロモーションをしていく覚悟というか、推進していかなくてはいけないと思っております。



そして、今、9市の連携ですが、やはり各市長さんがおっしゃっていたように、著名な神社、寺院があるならば、スタンプラリー等々も良いのではないかと思います。また水でいえば、玉川上水、多摩川といった、ある程度全国的な規模で知られているところで、9市角を出さないでよかったですねと言えるような感じでやっていけばいいのかなとも思います。

ただ、その媒体ですが、やはりネット時代ですから、加藤市長さんもおっしゃっていましたが、そういったものを活用すべきだと考えます。

本市でもYouTubeでお祭りや、いろいろなことを配信する「あきしまDays」というのを出しています。

今年の職員募集の動画では、去年入った職員と、中堅の職員、子育て中の職員が昭島市ではこういうところでこういう仕事をしていますと話をし、最後に私が「待ってるぜ」と言いました。昨年より職員採用試験の申し込みが2倍増えました。

ですから、加藤市長さんは自分で出演して頑張っていらっしゃるので、いや、俺も負けていけないということで、出させていただきました。

そのように考えたときに、今、9市で連携できるのは、9市で話し合っ、テーマを決める中で、YouTubeやSNSなどの媒体を使い、我々も知っていて知らないような9市の魅力を、自分の市のホームページを使いながら他市を紹介していく。今日のようなサミットや各市の事業をYouTubeで紹介していくことも必要であると思っています。

この前、うちの妻が誕生日だったので、家族4人で都内に食事に行ったときに、都内にはホテルの建設ラッシュでした。今後、2019年のラグビーワールドカップ、あるいは2020年のオリンピック・パラリンピックには、大勢の人が来られるなどというのは容易に想像できます。それに我々は遅れてはいけないなと思っています。

私は、市長になる前は長く議員をさせていただいて、某党の三多摩議員連絡協議会の会長も務めさせていただいておりました。議員として、東京都にオリンピック・パラリンピックに対して要望を提出する際、私も1964年の聖火リレーは大変感動いたしましたので、オリンピック・パラリンピックでは聖火リレーを、ぜひ各市に回していただくようお願いしました。

市長会でも、以前にお願いをいたしましたが、そうした聖火リレーを通して、9市で協力し、聖火リレーで何かできるのではないかと思います。東京2020大会が終われば、オリンピック・パラリンピックは、日本では多分、私の生きている間に開催されることはないと思いますし、今日来ていらっしゃる皆様も同様だと思います。そうしたオリン

ピックに参加していくということは、私は聖火リレーをどう各市が取り組むかということが共通課題なのではないかと思っています。

そういうことを行い頑張っていくというのが1つの手段であると思います。9市で話し合いながら、同じコスチュームを作成するとか、9市頑張るぜという、そういったところをYouTubeを使いながら紹介していくというのも大切なことではないかと思っています。

最後に、昭島駅から少し歩いたところに、秩父宮ラグビー場と同じような芝生で、同じような施設が建設され、来年完成する予定ですので、ラグビーワールドカップ2019、そして東京2020大会に向けて9市連携していければ、ありがたいと思います。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

ありがとうございました。

**(ファシリテーター 保井教授)**

ありがとうございました。拍手が生まれております。コンテンツをどうするかというだけではなくて、それをどういうふうに発信していくかというようなことで、YouTubeやSNS、大変重要な点ではないかと思っています。

では、最後に立川市の清水市長、ご意見をよろしくお願ひします。

**(立川市長)**

実は前回、第1回目のサミットの時に、立川の南口に産業の展示でありますとか情報の発信をする拠点をつくりたいというお話がありました。その後、2月に東京都の小池知事が、場所も決まっていないうちで立川に観光情報センター多摩をつくるということで、大きな予算で、エキュートの2階にできました。これについては、まだ私としてはあの程度のしつらえではちょっと不満で、都議会や東京都に対して、もう少し広くして充実してもらいたいという要望を行っております。



これがだめになり、しからばどうするか。少なくとも立川市としては、モノレールの立川南駅、そのすぐ南側の十字路のところに東京都との共有の土地を所有しております。平成33年完成を目途に国分寺の「しごとセンター多摩」等の施設が移転することになります。その約4分の1のスペースを立川市が所有しております。自転車の駐輪場等に使いたいと思っております。

もう1つ、そこに90㎡前後のスペースを確保することができているのですが、それが諦めざるを得ないということでもありますから、しかし、そうは言いながらも、情報発信というのは、これからの都市のあり方について欠くことのできないツールです。9市の皆さんと一緒に、ここから行政情報、あるいは子育て、あるいは市民活動、あるいは防災等の地域が抱えている課題の情報発信基地にしていきたいと思っております。

90㎡ありますので、テレビ局が持っているサテライトのようなしつらえがどうも可能なようで、まだ構想の段階でございますから、具体的話はまだ申し上げるには少し時間が欲しいのですが、平成33年を目途として、多摩地域全体の情報発信を担う拠点をつかっていきたいと考えております。

それから、各市の市長さんがご発言をした中で、そんなに時間がかからなくても実現できるものが幾つかあるということで、ご発言を受けて、発表させていただきますが、まず第1はレンタサイクルであります。福生市で電動のレンタサイクルをお始めになっているようですが、立川駅に隣接する立川タクロスの2階のところで、自転車駐車場の管理を委託している民間業者がレンタサイクルを自社で購入して、レンタサイクルの貸し出しを始めました。

聞くとところによると、半日で500円とかということでもありますから、例えば福生市まで行くのに、電動サイクルでしたら、真つすぐ行けば大体1時間ちょっとで行けます。途中であちこち寄っても、半日あれば十分いろんなところへ寄りながら福生まで行けます。福生市まで行ったら、そこでレンタサイクルを乗り捨てて、電車で帰っていただく方法も十分可能ですので、事務レベルでご相談をさせてもらいたいと思っております。

それから、立川にはフィギュアあるいはサブカルチャーのいろんな製作発信で世界中から注目をされている「壽屋」という会社があり、フィギュアをつくったり、サブカルチャーのアニメをつくったり、あるいはそのお手伝いをしたりということで、大変活発に活動している会社の本社があります。そこを経由して、一緒に回遊をできるような形ができればいいなと思っております。

それからもう1つは、国立市の永見市長さんからアートの話がありました。アートにつきましては、立川市では有名なアートがございます。高島屋やパレスホテル等の周辺の約6haに、109体のアートが飾ってあり、世界中からそれを見に来られております。これらのアートは残念ながら移動不可能です。ビルの壁に取りつけたり、道路の車よけに置いてあったりとか、そういう形ですから動かすことはできません。

ただ、これを監修されたのは北川フラムさんという、瀬戸内国際芸術祭や十日町の有名なトリエンナーレなどのディレクターで、初めて監修してつくった場所がファーレ立川です。

こういうことを考えますと、北川フラムさん経由でいろんな形ができるのではないかと考えておまして、実現可能なものだけ3つほど取り上げて申し上げましたが、ぜひ、各市さんと共同歩調をとりながら前に進んでいきたいと思っております。以上でございます。

#### (ファシリテーター 保井教授)

ありがとうございます。

議論をする時間が残り15分ほどございます。今、清水市長のほうからも、特に具体性を帯びていましたレンタサイクル、これはある意味、それぞれの市長さんのほうから、地域の中にある観光資源は点ではあるが、線としてつながっていないという意味においては、実現可能ですし、それから、海外を見ましても今、健康都市づくりというのは非常に新しいテーマになってきています。まさに、自転車さえあればいいかといいますと、自転車が通る道の環境はどうかですとか、そういう意味でいうと、自治体の中での連携がないと進められないことかなという気もいたします。

そのほか、アートの話、サブカルチャーの話、それから会場から道の駅というお話もありましたが、具体的な提案が幾つか出てきております。これに関して少しほかの市長さんからもご反応いただければというふうに思いますし、それから、臼井市長のほうからSNSのお話もありましたが、こういう媒体、それから組織ですね、どういう組織をつく

っていくか。最初から組織という話ではないでしょうが、どういうふうにこの議論を進めていくのか。その人材はまさにどうするのか。

今、まちづくりというのは人材をどうするかというのが自分は大きな課題でして、昔のように、もちろん道の駅のような施設も大事ですが、そういう開発部隊だけではなくて、プロモーション、先ほどまさに臼井市長がおっしゃっていましたがプロモーションでできる人、それから魅力的にそれを見せていくデザイン、グラフィックの人材というような、あるいは空き地、空き家も含めて不動産の人材とか、そういうある意味専門人材をどういうふうに連携していくのか、入れていくのかというような話もあるのではないかと思います。

こういった提案への反応、それから、これからどういうふうに始めていくのか、人材の話等々でもう少しご発言、おそらく全員の市長さんにお話しできないのではないかと思いますので、ぜひここはもう一度発言したいという形で、ちょっと私のほうにサインを送っていただければと思います。

特にアートのお話の中で、北川フラムさんの話も今出ましたが、瀬戸内をモデルにしたというところで、永見市長からもアートの体制づくりみたいなお話ございました。特にアートの連携も含めまして、どういうふうに進めていったらいいか、何かアイデア等あれば、よろしくをお願いします。



#### (国立市長)

北川フラムさんはファーレ立川、あるいは新潟、それから瀬戸内、これは大変よく存じ上げておられて、私もそれぞれのところを全部見て回りました。

1つだけ、人材の前にお話ししますと、国立がアートビエンナーレをやりまして、そのときに市民賞という賞をとった方が、これは韓国の方だったのですが、これは市民の投票でアートを選ぶという、1つだけ専門家じゃない方が選んだ賞がありまして、その方が今年の宇部のビエンナーレの国際コンクールで大賞をとられております。その方は韓国人の方ですが、ある意味で言うと、そういうふうに地域を越えて広がりを持ち得るのがアートだろうと。それから、作家が国際的に活躍し得る場もアートの要素って非常に大きいのだらうと思っています。そういう意味では、アートが持つ価値というのは非常に大きいなと思っています。

そういう意味で、誰がコーディネートできるのかというのは非常に難しいのですが、国立市の副市長もその専門プロで、副市長は北川フラムさんと一緒に委員会をやっていた人ですが、そこから通じて別の人間で、ついこの間会った人間がおられて、これはまだ公表していないのですが、例えば、国立の南部地域というのは準工で倉庫が多い。その倉庫そのものの形態を現代アートへ変えられるような何かの仕掛けをつくれませんか



というようなことを、内々でやっています。

そのような人材がおりますので、そういう方の何らかの力を借りながら、というのは、そのコーディネートができるような方もいらっしゃいますので、そういうようなことをやりながら、職員自身が力をつけていくということが必要なのではないかと考えています。

**(ファシリテーター 保井教授)**

ありがとうございます。それぞれの中に専門人材がおられますので、そういう方々を、まさに第一線の方を出し合って検討していくというようなことがあろうかと思えます。

自転車に関しましては、国分寺市の井澤市長も少しコメントをいただいたように思うのですが、今、清水市長のほうから具体的に進めたらどうかという提案がございましたが、何かさらに少しコメントを頂戴できればと思います。

**(国分寺市長)**

私は自転車については発言していませんが、いい提案だと思っています。

健康志向が今、強くなっていますので、我々のところも広域的にやるのであれば、ぜひ一緒にやりたいという気持ちが強いです。乗り捨てができて、各市を横断できるような形で自転車が果たす役割というのは非常に大きいのではないかと考えていますので、賛成です。ぜひやりたいと思います。

**(ファシリテーター 保井教授)**

すみません、ありがとうございます。

あと、時期的にいいますと、オリンピックをどう生かすかというのは先ほどもコメントとしていただいておりますが、この辺はおそらく各市長さんとしてもそれぞれ思いがとおりになるのではないかと考えています。では、臼井市長、よろしくお願ひします。

**(昭島市長)**

1964年は、私が小学校4年生の時でした。そのときに奥多摩街道に市内の全小学校が集まり、聖火リレーを見たときに非常に感動して、今でも目に焼きついています。議員時代も含めて、東京都に要望してきましたが、最初は東京オリンピックというのはコンパクトでということの話が多かったので、三多摩は関係ないといったお話になっていたものですから、それでは全然盛り上がりません。東京オリンピックであるならば、三多摩も含めたところで聖火は市に回していく。いろんなご議論をいただいて、どこを回るのか、みんなで考え、そしてまたオリンピックの機運が高まり、外国から来た人たちに優しく温かく、東京っていいところだよ、立川っていいところだよ、小平っていいところだよと言えるようになっていくのではないかと考えています。私は気持ちが大事だと思います。

聖火を迎えるにあたり、どう通るかということについては、9市でコラボレーションしていくのがいいと思いますし、そこがオリンピック・パラリンピックに向けての外国人に来ていただくための醸成につながっていくと思います。

**(小平市長)**

東京オリンピックのとき、私は小学校6年生でした。地方にいたので、ようやくテレビが入った時期で、体操が金メダルをとって、バレーボールが金メダルをとって、ものすごく感動しまして、時代がよかったというのもあり、あのときの思いが今でもありま

す。

小平市のことを申し上げますが、会場が東京にあるので、子供たちに実際にその会場に足を運んで観てもらおうという企画をやらうとしております。種目の決定やチケットの入手はこれからですが、基金をつかって、約1万人の小学校高学年から中学校3年生までの子供たちに観てもらおうというものです。できればパラリンピックの競技でも、ハンディがあってもこうやって頑張っているんだよということを、9市の合同の企画として、子供たちに生の競技を観てもらおうといったような企画もあるのではないかと考えております。

## **6 総括（法政大学 現代福祉学部 教授 保井美樹）**

（ファシリテーター 保井教授）

ありがとうございます。たくさんアイデアが出てきました。私なりにキーワードとしてまとめさせていただくと、大体5つぐらいのポイントがあったのかなと思います。

1つ目は、やはり点としてあるこの地域の中の観光の資源、これをきちんと線として、そして面として捉えていくということだろうと思います。水のお話、農業、それからアート、サブカルチャー、そして、そういうものをつないでいくという1つのアイデアとして、自転車、これはこれから何か動いていくような気がいたします。

点を面にしていくためには、自治体の区域を越えて、圏域を1つきちんとブランド化していこうという、ブランドというのが2つ目の大きなキーワードではないかと思います。

私としては、ファシリテーターをさせていただく立場からも、圏域というふうに今日呼んでおりましたが、その圏域の魅力的なネーミングがつくというのは、ご提案にもありましたが、私としてもぜひそうしていただくと、こういうファシリテーションもやりやすいですし、例えば多摩セントラル地域といった、何か伝えやすいネーミングがあるといいなと思いますし、その中にはネーミングだけではなくて、そのブランドというのは何を意味するのかということイメージできるような、水であったり、それから、国立市さんからもお話ございました、それからおそらくトトロとあって、武蔵村山市さん、それから小平市さんもプチ田舎というようなキーワードがございましたが、まちとして確かに非常に魅力のあるところもございます。国立市さんはまさに大学通りは、そのまちを見に行くために多くの、私の業界、建築まちづくりというと、わざわざ東京に来るとまずそこを見に行くという方もたくさんおられます。

それから歴史や自然、アート、人といったものをいかに見せていくかというブランディングは、やはりこの圏域でぜひ進めていただきたいと思います。

そして、それを支える場ですね。インフラというような言い方もできるのかもしれませんが、清水市長のほうからも立川駅前の南口で情報発信の場をつくっていきいたいというご発言もございました。そういうところを拠点にしながら点につないでいくという



仕組みをぜひ実現していただくといいのではないかと思います。

こういう機運を高めていくことで、オリンピックを見に行き、その施設で感じるだけではなくて、前の東京オリンピックの話、それから大阪万博の話がよく出てきますが、それを体感した今の50代以上の方に該当するのでしょうか、その時代感覚を非常に思い出しているというような感じがいたします。そういう意味で言うと、今の子供たちにオリンピックをぜひ見て、それだけではなくて、オリンピックのあったころのあの時代、何かいろんなことが変化していたなとか、そこの中で生き生きした時代だったとぜひ思ってもらえるように、そういうものもまさに観光の中で取り入れて、地域としてのホスピタリティー、全体でホスピタリティーをつくり出していくというようなことにもつながるのではないかと思います。

案内板の話というのも確かにございましたし、そういうものを含めると、おもてなし交流をしていくような市民が1人でも増えていくというようなことも大事ではないかと思います。

今出てきたようなポイントをマネジメントしていくような組織をどのようにつくっていくのか、協議会のようなものかもしれませんし、事務レベルで研究会などが立ち上がっていくのかもしれません。事業のマネジメント、そして専門家との連携も含め、これから今日の議論を実現していく上では最も大事になると思いますので、各市長の発言を受けて、ぜひ事務レベルで検討していただきたいと思います。

この中の市長さんも一緒にさせていただいていますが、私、東京都市長会の広域連携事業の助成の審査にもかかわらせていただいています。広域連携事業におきましては、今年度から観光が新しく立ち上がって、それだけ取り出してまた行われていますので、非常に現実的なお話をすると、広域連携事業にこの9市できちんと申請をつくっていただいて、サイクルツーリズムから始めるか、アートなのか、何か取り出してほんとうに始めてみるというふうにされたらどうかと思っています。

ぜひ、来年度のこの広域連携サミットにおきましては、そういった具体的な取り組みがまた進んでいるということを報告させていただけるように、取り組みを進めてまいりたいと、私も何かお手伝いできることがあれば、ぜひさせていただきたいと思っております。

本日は3時半から2時間半にわたりありがとうございます。そして、ご発表いただきました市長様、ほんとうにどうもありがとうございます。



## 7 閉会挨拶（立川市長 清水庄平）

（司会）

改めて各市の市長様、それから保井先生、どうもありがとうございました。

それでは、閉会の挨拶に移らせていただきます。立川市の清水市長、よろしく願いいたします。

### (立川市長)

皆さん、今日はどうも大変ありがとうございました。前回に比べて、聴衆の聞いていただいている皆さんの目つきが違っておりました、私自身も最初は結構緊張しましたが、ほかの市長の方がみんなリラックスして発言できて、大変いい会であったかなと思っております。

なかなか9市全部が同じ価値観、同じ状況にないわけでありますから、なかなか即連携するというのは難しいことであろうかと思いますが、2つでも3つでもいいですから、できれば一歩二歩踏み出せるような、こんなご協力を重ねていただければありがたいと思っております。

最後でございますが、ファシリテーターとして法政大学の保井先生、それから8市の皆さん、そして聴衆の皆さん、大変ご協力ありがとうございました。少なくとも来年の今ごろにはまたもう1回、第3回を開催しようと思っておりますので、その節はどうぞよろしくお願い申し上げます。

それから、大変恐縮でございますが、皆さんのお手元の資料の中にアンケート用紙が入っていると思うのですが、この会のネーミングを一言二言書いていただければありがたいと思っておりますので、よろしくご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

### (司会)

ありがとうございました。

以上をもちまして、平成29年度広域連携サミットを終了いたします。最後にもう一度、出席いただいた市長様、それから保井先生に温かい拍手をお願いいたします。



## 平成29年度広域連携サミット報告書

編集 立川市 総合政策部 企画政策課  
東京都立川市泉町1156-9  
電話番号 042-523-2111 (代)